勝手に恋をして。

おっ茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
勝手に恋をして。

【Ｎコード】
Ｎ４４９１Ｐ

【作者名】
おっ茶

【あらすじ】
特別武装警察・真選組。残念な上司をもつ、監察・山崎退は、沖田の彼女の女隊士に、淡い恋心を抱く。
不器用な山崎がおりなす、純情ストーリー！

〔第1話・前編〕（前書き）

初めまして、おっ茶です！

銀魂ラブ、真選組ラブ、でございます。

まだまだ未熟者ですが、温かい目で、見守ってやって下さい！

では、本編へ☆

〔第1話・前編〕

「ギャァぁぁぁ！！」

今日もだ。

「ごめんなさい、副長ォ！！」

「お前はいつも…！」

今日も副長に、ボコ殴りにされた。
ミントンしてた俺も悪いけど、そこまでしなくたっていいじゃないか…（泣）

「大丈夫？退くん。」

「…奈々ちゃん。」

声をかけてきたのは、女隊士の奈々ちゃんだった。

『ペタッ』

奈々ちゃんは黙って、傷に絆創膏を貼ってくれた。

「…ありがとう。」

「これに懲りたら、もう副長の前で、ミントンしちゃ駄目だよ！？」

「うん、分かっｔ「奈々ぁ、どうしたんですかィ？」

「総悟！」

（沖田隊長のことは、呼び捨てなんだ…。）

胸が痛んだ。

（まぁ、そりゃそうか。奈々ちゃんと沖田隊長は、恋人同士なんだから。）

――――――・・・

「すいません、副長ォ！！」

俺はいつものように、副長に追いかけられていた。

「どっかに隠れなきゃ！！」

とっさに近くの茶屋に駆け込んだ。

「…どうぞ。」

「！？」

そっとお茶を差し出してくれた女の子がいた。

「大変そうですね。ゆっくり休んでいってください。」

「ど…どうも。」

俺はこの瞬間。

彼女に恋をした。

副長にも、その女の子にも無理を言って、真選組のマネージャー的なポジションに、その女の子はなった。

家が道場らしく、意外と強かった。

稽古をしてる彼女は、とても綺麗だった。

心の底まで、染み込んでくるような感覚だったのを覚えてる。

でも、そんな彼女は、いつの間にか、人のものになってて…。

「好きなんでさァ！」

沖田隊長の告白を聞いて、涙を流してた。

そして、そのあと言ったんだ。

私も、…と。

『あぁ。もう俺のものになる確率なんて無いんだ。』って、勝手に泣いて、勝手に悔しがって…。

でも、まだ…。

彼女の事を目で追っている。

…見つめてる。

…見つめていたいんだ。

わがままかもしれないけど。

〔第1話・前編〕（後書き）

駄文ですみません！

お楽しみ頂けましたか？

基本的に、更新早いので、チェックして頂けると幸いです…☆

あ、あと、駄文だらけですが、荒らし・中傷はご遠慮ください。

ではでは☆

また今度、お会いできたら☆

〔第1話・後編〕（前書き）

後編ですっ！

まだ前編を読んでない方は、先に前編からお楽しみください♪

バッドタイミング・沖田ぁぁぁ！！

どうなる？山崎ぃぃぃ！

〔第1話・後編〕

――――――・・・

「あのね、退くんがまた、ミントンやって副長に殴られたから、絆創膏貼ってたの☆退くんったら、懲りないよね～；」

「…そうですかィ。急用を思い出した。失礼するぜィ。」

「うん、バイバイ！お仕事頑張ってね！！」

奈々ちゃんは沖田隊長に向かって、大きく手をふっていた。

どうしようもなく可愛いのだ。無邪気な彼女の背中が。

「…どうしたの？退くん…。」

我にかえった。

俺は奈々ちゃんを後ろから、抱き締めようとしていた。

「…む、虫がさ！！とまってたから、取ったげようと思って！！」

「そっか☆ありがとう！退くんは優しいね！彼氏にするんだったら、退くんみたいな優しい男の子がいいなっ♪」

…やめてくれ…。

君には沖田隊長がいるだろ？

これ以上、俺の心を揺さぶらないでくれ…！！

「…えへへ☆光栄だな！そんな事言われたの初めてだよ～！」

「嘘つけ～！！退くんは優しいから、モテたでしょ！？」

…やめてくれ…。

「いいや、そんな事ないよ。俺、地味だし；」

「ううん、そんな事無いってば！私が今、真選組にいられるのは、退くんのおかげなんだよ？存在が大きすぎるよ！！」

やめてくれ…。

「やめてよ～！からかわないでよ！！俺、奈々ちゃんに助けられただけだし！！」

「…助けたくなっちゃったんだ。だって退くん…、」

やめてくれ！！！！

「可愛いｋ「やめてくれよ！！」

奈々ちゃんもそうだが、自分でも、驚いていた。

なんで、こんな事、言ってしまったんだろう。
好きなのに。

「ご…ごめん。イライラさせちゃって。悪気は無かったけど…」
「俺こそ、ごめん。イライラしちゃって。」
勝手に負けて、勝手に嫉妬して。
勝手に恋して、勝手にドキドキして。
これ以上、一緒にいたら、我慢できない。…限界がくる。

「…んだ。」
「ん？」
「…会いたくないんだ。」
ごめん。ごめん。
こうでもしないと、俺は君を諦められない。
…君を苦しめる。
「…ごめん。ごめん。」

我慢できないんだ。
こうでもしなきゃ。
納得できないんだ。
人のものになった君の存在に。

〔第1話・後編〕（後書き）

長文（？）お疲れ様です…＾＾

このお話は、第2話へと、続きます！！

…山崎の存在が、消えて無くなりませんように…なんちゃって☆

今後とも、よろしく！！

〔第2話・前編〕（前書き）

第2話です＾＾υ

優しい土方が好きな人、ごめんなさい！

冒頭から、土方が山崎に怒鳴ってます！！

と、いうわけで。

どうぞっ↓

〔第2話・前編〕

「き…、ざき…、山崎ィ！！聞いてんのか！？」

「…あ、ふいはへんふふほー。」

「…まず口の中から、ラケットを取れ∪」

『カポッ』

「…すいません副長。」

最近の俺はなんかおかしい。
今日に至っては、ラケットを食べてしまった…∪

ごめんね、ラケット！！

「…どうした、山崎。悩み事でもあんのか？」

「…いえ、別に。」

「…そうか。お前には人一倍働いてもらってるからな。疲れてんだろ。今日はオフにしてやっから、気分転換にどっか行ってこい。」

副長の言葉で、目に涙がたまった。
いつもは怒鳴り散らす副長が、俺の心配をしてくれてるなんて…。

お礼を言おう。

「ありがとうございｍ「なんて、言うと思ったか！！とっとと働け！！」

「…はい。すいません副長。」

何回目かな…謝るの。

……撃沈。

（そうだよね。副長が優しいだなんて、この世の終わりだ。世紀末だ。）

トボトボと、パトロールに出かけた。

〔第2話・前編〕（後書き）

キターーーーー！！

鬼の副長・土方十四郎！

お楽しみ頂けましたか？

今回は後編の都合で、少し短めですが…。

では！

また、後編で！！

〔第2話・後編〕（前書き）

こりゃまた短い。

内容が浅いです…υ

すんませんm（＿＿）m

あちゃー。

〔第2話・後編〕

今日も江戸の町は至って平和だ。

「…あ。」

俺はついつい立ち止まってしまった。

「奈々ちゃんの…茶屋だ…。」

俺の視線は、茶屋に釘付けだった。

こうして茶屋を見てると、いろんな事を思い出す。

恋に落ちた事や、剣を見事に操る凛々しい姿に目を奪われた事。

副長に怒られた俺を慰めてくれた事や、一緒にミントンをやってくれた事。

…沖田隊長の言葉に、はにかみ、泣きながら、答えた事…。

「…。」

きっと俺の方が、彼女の事を好きだった。

きっと俺の方が、好きになるのが先だった。

きっと俺の方が、彼女との距離が近かった。

きっと俺の方が、

彼女を幸せにできた。

…目頭が熱い。

（泣くな泣くな泣くな泣くな、山崎退！！男だろ！！）

そうだよ…。男なんだから。いさぎよく諦めなきゃ。

好きだから…。

君の事が大好きだから…。

好きだからこそ、諦める。

君を苦しめない為…。

…いいや、違う。

君じゃない。

自分を苦しめない為だ。

「…一周まわって、結局自己中か…ʊ」

俺は茶屋から立ち去る事にした。

…バイバイ。

恋心。

また会える日まで。

〔第2話・後編〕（後書き）

すんません！
マっジですんません！！
駄文だらけでした！
誰か私に天誅を！！

〔第3話〕（前書き）

いよいよ、最終回！

退くんの恋の行方は、どうなっちゃうの！？

今回は、長いです！

〔第3話〕

「はぁ…υこんなの終わりそうに無いよ…。」

俺は屯所の書斎で始末書を書かされている。…沖田隊長が壊した建物の。

ついさっきの出来事…。

――――・・・

「山崎ィ。」

「何ですか？沖田隊長。」

「これ、土方さんに『書け』って言われたんでぃ。」

「…で？」

「テメーが書け。」

渡されたのは、大量の始末書。

ざっと見、５０…いや１００…いや１５０枚くらいあるかなυ絶対にやりたくない！

「…やりますυ」

沖田隊長、笑ってるんだもん。黒い顔で…。断ったら、殺されるって…絶対。

――――・・・

んなわけで。

残念な上司が沢山いる俺。

…可哀想だよ…。

「頑張るぞ！！」

大丈夫！俺はあんな人たちには、ならない！

～３０分経過～

「まだまだぁ！イケるぞ！」

～１時間経過～

「大丈夫！俺ならできる！」

～１時間半経過～

「しっかりしろ、山崎退！」

～２時間経過～

「…平気平気。平気だよ。」

～2時間半経過～
「気を確かに保つんだ…。」
～3時間経過～
「ハハハ、あと84枚だ…。」
って…
「無理に決まってんだろうがぁぁぁ！！」
……ギブ。
「…はぁ…。猫の手でも、借りたいよ…υ」
諦めかけていた。…てか、最初っからやりたいなんて、言ってないし。

『コンコンッ』
「？…はい、どうぞ。」
「こんにちは、退くん…。」
「…奈々ちゃん…。」
奈々ちゃんが来るなんて、思いもしなかった。
「…謝りにきたの。」

「…そう。」

奈々ちゃんの顔を見ずに、俺は始末書に向き直った。

「こないだは、イライラさせちゃって、ごめんなさい！…私、このまま、退くんと気まずいの…嫌なんだ。」

「…うん。」

それがどうしたんだよ！嫌だから、なんだよ！

「…仲直りしたい。」

「…あっそ。」

…俺だって、仲直りしたい。でも…。

でも、奈々ちゃんのそばにいたら、気持ちを隠しきれない。

「私ね、退くんに、伝えたい事があるんだ…。」

俺は無言で、始末書を書き続けた。

「私ね…

退くんの事

好き。」

「…えっ？」

手が止まった。

「ずっと前から…。」

鼓動が速くなるのがわかった。

「…沖田隊長は？」

ちゃんとした言葉を返した。

「総悟も好きだよ…。強いし、面白いｓ「そうじゃなくって！！」
大声をあげてしまった。
「……付き合ってるんだろう？」
「…は？」
奈々ちゃんの表情が、一変した。
「付き合ってるって…、私と総悟が！？」
「ち、違うの！？」
「あったりまえでしょ！！誰があんなサド王子と！！」
「でも、前、告白されてたじゃん！！裏庭で！！」
「あ～、あれか！！あれはね…」

――――――・・・
「ひっひひっひ、土方ァ～死ねェ～♪」
「な、何してるんですか！！沖田隊長！」
「あ、新入りじゃねーか。今、土方さんのマヨネーズに、砂利混ぜてるんでぃ。テメーもやるか？」

「…はい、やりたいです！私、イタズラ大好きなんです！」

「奇遇だな！俺もイタズラが

好きなんでさァ！！」

→※ここで、山崎遭遇。

「…私もです！」

――――――・・・・

「ってわけ。」

「…／／」

「泣いてたのは、総悟があまりにも、イタズラに一生懸命だったから…（笑）」

俺の今までの苦労は、何だったんだよ！！！！！！

Ｍｒ．早とち

「コホンっ。…んで。答えは？」

あ、すっかり忘れてたυ

「俺も…」

「俺も好きだよ。」

「…退くん…／／」

お互いの顔が近くなっていく。

奈々ちゃんが目を閉じた…。

その瞬間。

『ガララララッ』

「山崎ィ！！てめっ、パトロールサボってんじゃねー（怒）」

開いたふすまから、副長が入ってきた。

「…あ、邪魔して悪い。」

…出てっちゃった。

「ま、いっか！」

奈々ちゃんが言った。

そうだね、と2人で笑った。

苦しんだ分、楽しもう。

副長に怒鳴られながら

ミントンやって。

完

〔第3話〕（後書き）

どうでしたか？

恋愛にウブな副長でした＾＾

次回作は、沖神、もしくは、土ミツを考えています！！

ぜひ、そちらも、ご覧ください♪

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4491p/

勝手に恋をして。

2010年12月15日20時34分発行